

科学研究費補助金（認知症政策研究事業）  
分担研究報告書

認知症の抑うつと無気力に対する非薬物的介入の実践状況と工夫に関する質的研究

研究分担者 大庭 輝 弘前大学大学院保健学研究科 准教授

研究要旨

本研究では、認知症の抑うつと無気力に対してどのような非薬物的介入が行われているか、また、実施の際にどのような工夫が施されているかについて、先行研究の文献レビューと専門職を対象とした面接調査により明らかにすることを目的とした。文献レビューは5つのデータベースを用いて1113件の文献を抽出し、最終的に基準を満たした20件を分析対象とした。面接調査では、認知症の非薬物的介入に携わる専門職9名に対して60分程度の半構造化面接を行い、得られた面接記録をテキストマイニングソフトで解析した。レビューの結果、抑うつや無気力に対する感情や刺激に焦点を当てたアプローチの有効性が示唆され、面接調査でも抑うつと無気力は「効果」や「アセスメント」に関する単語と組み合わせて出現する傾向が見られ、また、「効果」は刺激に対する非薬物的アプローチに関する単語と合わさって出現する傾向にあった。抑うつや無気力の症状の特徴に合わせて特定の非薬物的アプローチが選択されているわけではなかったが、刺激に対するアプローチは実践においても経験的に有用であると考えられており、より効果を高めるためにアセスメントや介入法の工夫が行われていると考えられた。

A. 研究目的

抑うつと無気力（アパシー）は認知症で頻繁にみられる症状であり、中等度認知症の48%がアパシーを、33.5%が抑うつを呈することが報告されている（Robert et al., 2009）。また、近年報告されたメタ分析では、認知症の54%がアパシーを、39%が抑うつを呈することが示されている（Leung et al., 2021）。高齢者施設の入居者を対象とした我が国における報告でも、アパシーは頻繁にみられる症状であることが示されている（Arai et al., 2017）。認知症高齢者に対する抗精神病薬の使用は死亡率を高めることが報告されたこともあり（Lenzer, 2005）、抑うつやアパシーなど認知症の行動・心理症状に対する第一選択は非薬物的介入が推奨されている（International Psychogeriatric Association, 2012）。

本研究では、認知症の抑うつとアパシーに対する効果的な非薬物的介入を実施するために、①既存の研究で行われている介入研究のレビューを行い、②専門職を対象として実践の状況やその工夫について質的に検討することの2点を目的とした。なお、①については前年度の報告で把握した研究について詳細な分析を行った。

B. 研究方法

研究1

5つのデータベースを用いて文献検索を行い、1113件の文献を抽出した。研究者2名でアブストラクトや全文のチェックを行い、最終的に20件の文献が適格基準を満たしていた。

介入法については、American Psychiatric Association (APA, 2007)のガイドラインに掲載されている4つのアプローチに基づいて分類した。4つのアプローチはそれぞれ、1. 行動に焦点を当てたアプローチ（応用行動分析など）、2. 感情に焦点を当てたアプローチ（回想法、支持的療法など）、3. 認知に焦点を当てたアプローチ（認知トレーニングなど）、4. 刺激に焦点を当てたアプローチ（運動や芸術療法、音楽療法など）である。また、これらに当てはまらないアプローチは、その他のアプローチとして分類した。

研究2

認知症の非薬物的介入に携わる専門職9名（男性5名、女性4名）を対象にオンラインによる60分程度の半構造化面接を行った。

調査項目

基本属性として、年齢、性別、保有資格、勤務先形態、認知症に関する経験年数、雇用形態について尋ねた。

また、半構造化面接を円滑に進めるための質問項目として、「用いている非薬物的アプローチの手法」、「対象としている認知症の症状」、「非薬物的アプローチを実施する際の注意点」、「認知症の抑うつとアパシーに対する非薬物的介入の実践有無」、「認知症の抑うつとアパシーに対する有効だと思うアプローチ法」、「認知症の抑うつとアパシーに対する非薬物的介入を行う上での留意点」を設定した。これらの質問をベースにして、適宜質問を追加した。

面接内容は逐語に起こし、テキストマイニングのフリーソフトである KH Coder (樋口, 2014) を用いて分析した。研究協力者から発せられた単語を基にコーディングルールを設定し、共通して発せられる傾向を調べる共起ネットワーク分析を用いて解析した。コーディングルール(「カテゴリ名: 単語」)は「アセスメント: 評価 | 反応 | 検査 | 認知機能 | アセスメント | チェック」、「うつ・アパシー: うつ | アパシー」、「関係者: 家族」、「非薬物 (感情): 回想法 | 支持療法 | 精神療法」、「非薬物 (刺激): 体操 | お話 | Wii | 作業療法 | CST-J (Cognitive Stimulation Therapy Japanese version, 認知活性化療法) | 刺激 | 音楽療法 | ゲーム | 芸術療法 | 音楽療法 | 身体感覚 | コラージュ | 園芸療法 | 認知活性化療法」、「非薬物 (認知): 脳トレ」、「工夫: グループ | 集団 | メンバー | 個別性」、「効果: 改善 | 効果 | 活性 | 変化」、「多職種: 看護 | 職種 | 指導」であった (表)。

(倫理面への配慮)

本研究の実施に当たって、弘前大学大学院保健学研究科倫理委員会の承認を得た (承認番号 2021-024)。対象者には研究の方法や面接時間、結果の扱いや匿名化の方法、同意の撤回方法、面接内容の録音について文書を共有しながら説明し、その場で同意を得た。署名した同意書は後日郵送による返送を依頼した。

C. 研究結果

研究 1

20 件の研究のうち、うつやアパシーをプライマリアウトカムとして用いていた研究は 7 件 (アパシー 2 件、抑うつ 4 件、両方 1 件) であった (Hsieh et al., 2010;

Van Bogaert et al., 2013; Treusch et al., 2015; Valentí Soler et al., 2015; Olsen et al., 2016; Larouche et al., 2019; Pérez-ros et al., 2019; )。

表 コーディングルール

コード	単語
アセスメント	評価   反応   検査   認知機能   アセスメント   チェック
うつ・アパシー	うつ   アパシー
関係者	家族
非薬物 (感情)	回想法   個人療法   支持療法   精神療法
非薬物 (刺激)	ラジオ体操   体操   お話   Wii   作業療法   CST-J   刺激   音楽療法   ゲーム   芸術療法   音楽療法   身体感覚   コラージュ   園芸療法   認知活性化療法
非薬物 (認知)	脳トレ
非薬物 (行動)	行動療法   行動分析
工夫	グループ   集団   メンバー   個別性
効果	改善   効果   活性   変化
多職種	看護   職種   指導

抑うつを評価していた 18 研究のうち、効果ありと判定された研究は 11 件であり、刺激に焦点を当てたアプローチが 7 件 (Fernández-Calvo et al., 2015; Huang et al., 2019; Lin et al., 2019; Olsen et al., 2016; Pérez-Ros et al., 2019; Pongan et al., 2017; Wang et al., 2010)、感情に焦点を当てたアプローチが 1 件 (Hsieh et al., 2010)、その他のアプローチが 3 件 (Brooker et al., 2011; Lai et al., 2020; Larouche et al., 2019; ) であった。

アパシーを評価していた 4 研究はいずれも効果ありと判定された。行われていた介入は刺激に焦点を当てたアプローチが 3 件 (Hattori et al., 2011; Treusch et al., 2015; Valenti Soler et al., 2015)、感情に焦点を当てたアプローチが 1 件 (Hsieh et al., 2010) であった。

研究 2

対象者 9 名の年齢は 20 代 1 名、30 代 4 名、40 代 4 名であり、8 名は常勤雇用であった。保有資格は 7 名が公認心理師と臨床心理士であり、1 名は管理栄養士と健康運動指導士、1 名は社会福祉士であった。認知症に関する臨床経験年数の平均は 11.8 ± 5.6 年であった。

用いられていた非薬物的アプローチは、行動に焦点を当てたアプローチとして応用行動分析と行動療法、感情に焦点を当てたアプローチとして回想法、支持療

法などの精神療法、認知に焦点を当てたアプローチとして認知トレーニング、刺激に焦点を当てたアプローチとして認知活性化療法、コラージュ療法、身体感覚

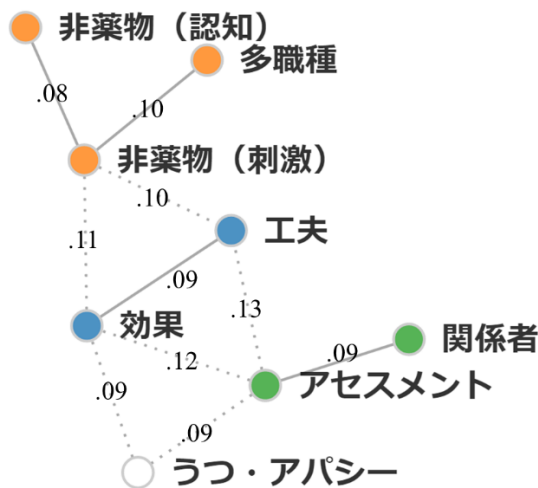


図1 共起ネットワーク分析の結果

※同色は関係性の強いコーディングを示す

に働きかけるアプローチ、ゲームなどのレクリエーションであった。これらのアプローチの実施状況は、抑うつとアパシーに焦点を当てて選択されているのではなく、行っているアプローチの対象として抑うつや無気力の者も含まれているという状況であった。

共起ネットワーク分析の結果、「うつ・アパシー」と共起していたのは「効果」と「アセスメント」であり、この2つは互いに共起している関係であった。また、「効果」と「工夫」は「非薬物（刺激）及び「アセスメント」とそれぞれ共起していた（図）。一方、効果の測定にあたって、Geriatric Depression Scale や Neuropsychiatric Inventory など、抑うつやアパシーの評価に頻用される既存の尺度はほとんど用いられてはいなかった。

#### D. 考察

##### 研究1

認知症に伴う抑うつやアパシーに対する介入として、刺激に焦点を当てたアプローチや感情に焦点を当てたアプローチが有効であると考えられた。アパシーのないうつ病患者は、アパシーが併存する患者よりも抑うつ症状や疲労感を呈することが報告されており、感情面の症状において違いが見られる (Batail et al. 2018)。また、アパシーは動機づけの障害とされるが、自発的な動機づけの障害と環境刺激に対する反応性という点で区別される (Robert et al., 2009)。感情や刺

激に対するアプローチは、抑うつという感情面に焦点を当てていることや、自発性の乏しい認知症の人に対する環境刺激としての役割が効果に影響しているのかもしれない。

一方で、認知症の個人に焦点を当てた場合、その重症度や認知症の診断といった医学的要因だけでなく、嗜好や性格といった心理的要因も多様であり、こうした個別性を考慮した上で介入することの必要性が提案されている (Chenoweth et al., 2009; Lu et al., 2021)。これらの報告からは、ターゲットとなる症状に合わせた介入法を選択したうえで、個別的な要因を考慮した調整を行うことが有効である可能性が示唆される。

##### 研究2

実践として、特定の症状に焦点を当ててアプローチ法を選択しているわけではなく、固定化されたアプローチをどの症状に対しても行っていた。症状に合わせて適切なアプローチ法を選択することが望ましいと考えられるが、多様なアプローチ法を個人が実践するには専門的な知識や技術が幅広く求められるために一職種だけで行うことが難しいことが背景として推測される。また、うつ・アパシーと共起していたのはアセスメントであり、本研究の対象者は特定の非薬物的介入よりも個別のアセスメントが抑うつや無気力への効果に影響すると考える傾向にあった。一方、選択できる非薬物的介入の限界を補うために、対象者の評価や個別か集団かといった実施方法の工夫などを行っている可能性もある。

認知症の抑うつとアパシーに対する非薬物的介入については、体操やレクリエーション、創作活動などを含む刺激に対するアプローチ法が効果に関する単語と結びついており、一方で認知や行動、感情に焦点を当てたアプローチとの関係性は薄かった。抑うつやアパシーに焦点を当てた上で特定の非薬物的アプローチを選択しているわけではなかったが、刺激に対するアプローチの有効性が経験的に理解されているのかもしれない。しかしながら、効果の測定にあたって臨床実践の中では既存の尺度はほとんど用いられておらず、非薬物的介入の客観的な効果測定を行うことも重要であると考えられる。

#### E. 結論

文献レビューの結果に基づくと、認知症の抑うつ・アパシーに対する非薬物的アプローチとしては感情

や刺激に対するアプローチが有効である可能性が示唆された。そして、実践としても刺激に対するアプローチが比較的用いられている傾向にあった。また、アセスメントや個々の対象者にあった工夫を行うことで有効性を高めていると考えられた。症状に合わせた非薬物的アプローチを選択し実践するためには、それぞれのアプローチを得意とする多職種が協働しての実践が求められる。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

Oba, H., Kobayashi, R., Kawakatsu, S., Suzuki, K., Otani, K., Ihara, K. (2022). Non-pharmacological approaches to apathy and depression: A scoping review of mild cognitive impairment and dementia. *Frontiers in Psychology*, 13, 815913.

### 2. 学会発表

大庭輝, 小林良太, 川勝忍, 鈴木匡子, 井原一成 (2021). 認知症の抑うつ・無気力に対する非薬物的介入のシステマティックレビュー. 日本老年精神医学会第36回大会.

## G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

## 引用文献

American Psychiatric Association (2007). Practice guideline for the Treatment of Patients with Alzheimer's Disease and Other Dementias of Late Life. 2nd Ed. Arlington, VA: American Psychiatric Association.

Arai, A., Ozaki, T., and Katsumata, Y. (2017). Behavioral and psychological symptoms of dementia in older residents in long-term care facilities in Japan: a cross-sectional study. *Aging and Mental Health*, 21, 1099–1105.

Batail, J. M., Palaric, J., Guillery, M., Gadoullet, J., Sauleau, P., Le Jeune, F., et al. (2018). Apathy and depression: which clinical specificities? *Personalized Medicine in*

*Psychiatry*. 7-8, 21–26.

Brooker, D. J., Argyle, E., Scally, A. J., & Clancy, D. (2011). The Enriched Opportunities Programme for people with dementia: A cluster-randomised controlled trial in 10 extra care housing schemes. *Aging and Mental Health*, 15(8), 1008–1017.

Chenoweth, L., King, M. T., Jeon, Y. H., Brodaty, H., Stein-Parbury, J., Norman, R., et al. (2009). Caring for aged dementia care resident study (CADRES) of person-centred care, dementia-care mapping, and usual care in dementia: a cluster-randomised trial. *Lancet Neurol*, 8, 317–325.

Fernández-Calvo, B., Contador, I., Ramos, F., Olazarán, J., Mograbi, D. C., & Morris, R. G. (2015). Effect of unawareness on rehabilitation outcome in a randomised controlled trial of multicomponent intervention for patients with mild Alzheimer's disease. *Neuropsychological Rehabilitation*, 25(3), 448–477.

Hattori, H., Hattori, C., Hokao, C., Mizushima, K., & Mase, T. (2011). Controlled study on the cognitive and psychological effect of coloring and drawing in mild Alzheimer's disease patients. *Geriatrics and Gerontology International*, 11(4), 431–437.

樋口耕一 (2014). 『社会調査のための計量テキスト分析 ——内容分析の継承と発展を目指して』 ナカニシヤ出版

Hsieh, C. J., Chang, C., Su, S. F., Hsiao, Y. L., Shih, Y. W., Han, W. H., & Lin, C. C. (2010). Reminiscence group therapy on depression and apathy in nursing home residents with mild-to-moderate dementia. *Journal of Experimental and Clinical Medicine*, 2(2), 72–78. [https://doi.org/10.1016/S1878-3317\(10\)60012-5](https://doi.org/10.1016/S1878-3317(10)60012-5)

Huang, N., Li, W., Rong, X., Champ, M., Wei, L., Li, M., Mu, H., Hu, Y., Ma, Z., & Lyu, J. (2019). Effects of a Modified Tai Chi Program on Older People with Mild Dementia: A Randomized Controlled Trial. *Journal of Alzheimer's Disease*, 72(3). <https://doi.org/10.3233/JAD-190487>

International Psychogeriatric Association (2012). The IPA Complete Guides to Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia (BPSD). United States: International Psychogeriatric Association.

Lai, F. H. yin, Yan, E. W. hung, Tsui, W. S., & Yu, K. K. (2020). A randomized control trial of activity scheduling

- for caring for older adults with dementia and its impact on their spouse care-givers. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 90.
- Larouche, E., Hudon, C., & Goulet, S. (2019). Mindfulness mechanisms and psychological effects for aMCI patients: A comparison with psychoeducation. *Complementary Therapies in Clinical Practice*, 34.
- Lenzer, J. (2005). FDA warns about using antipsychotic drugs for dementia. *BMJ*, 330:922.4.
- Leung, D. K. Y., Chan, W. C., Spector, A., and Wong, G. H. Y. (2021). Prevalence of depression, anxiety, and apathy symptoms across dementia stages: a systematic review and meta-analysis. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, 36, 1330–1344.
- Lin, R., Chen, H. Y., Li, H., & Li, J. (2019). Effects of creative expression therapy on chinese elderly patients with dementia: An exploratory randomized controlled trial. *Neuropsychiatric Disease and Treatment*, 15, 2171–2180. <https://doi.org/10.2147/NDT.S200045>
- Lu, S., Zhang, A. Y., Liu, T., Choy, J. C. P., Ma, M. S. L., Wong, G., et al. (2021). Degree of personalisation in tailored activities and its effect on behavioural and psychological symptoms and quality of life among people with dementia: a systematic review and meta-analysis. *BMJ Open* 11: e048917.
- Oba, H., Kobayashi, R., Kawakatsu, S., Suzuki, K., Otani, K., Ihara, K. (2022). Non-pharmacological approaches to apathy and depression: A scoping review of mild cognitive impairment and dementia. *Frontiers in Psychology*, 13, 815913.
- Olsen, C., Pedersen, I., Bergland, A., Enders-Slegers, M. J., Patil, G., & Ihlebæk, C. (2016). Effect of animal-assisted interventions on depression, agitation and quality of life in nursing home residents suffering from cognitive impairment or dementia: a cluster randomized controlled trial. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, 31(12),
- Pérez-ros, P., Cubero-plazasa, L., Mejias-serrano, T., Cunha, C., & Martinez-a-nau, F. M. (2019). Preferred Music Listening Intervention in Nursing Home Residents with Cognitive Impairment: A Randomized Intervention Study. *Journal of Alzheimer's Disease*, 70, 433–442.
- Pongan, E., Tillmann, B., Leveque, Y., Trombert, B., Getenet, J. C., Auguste, N., Dauphinot, V., El Haouari, H., Navez, M., Dorey, J. M., Krolak-Salmon, P., Laurent, B., & Rouch, I. (2017). Can Musical or Painting Interventions Improve Chronic Pain, Mood, Quality of Life, and Cognition in Patients with Mild Alzheimer's Disease? Evidence from a Randomized Controlled Trial. *Journal of Alzheimer's Disease*, 60(2), 663–677.
- Robert, P., Onyike, C. U., Leentjens, A. F. G., Dujardin, K., Aalten, P., Starkstein, S., et al. (2009). Proposed diagnostic criteria for apathy in Alzheimer's disease and other neuropsychiatric disorders. *European Psychiatry* 24, 98–104.
- Treusch, Y., Majic, T., Page, J., Gutzmann, H., Heinz, A., & Rapp, M. A. (2015). Apathy in nursing home residents with dementia: Results from a cluster-randomized controlled trial. *European Psychiatry*, 30(2), 251–257.
- Valentí Soler, M., Agüera-Ortiz, L., Olazarán Rodríguez, J., Mendoza Rebolledo, C., Pérez Muñoz, A., Rodríguez Pérez, I., Osa Ruiz, E., Barrios Sánchez, A., Herrero Cano, V., Carrasco Chillón, L., Felipe Ruiz, S., López Alvarez, J., León Salas, B., Cañas Plaza, J. M., Martín Rico, F., & Martínez Martín, P. (2015). Social robots in advanced dementia. *Frontiers in Aging Neuroscience*, 7(JUN).
- Van Bogaert, P., Tolson, D., Eerlingen, R., Carvers, D., Wouters, K., Paque, K., Timmermans, O., Dilles, T., & Engelborghs, S. (2016). SolCos model-based individual reminiscence for older adults with mild to moderate dementia in nursing homes: a randomized controlled intervention study. *Journal of Psychiatric and Mental Health Nursing*, 23(9–10), 568–575.
- Wang, W., Sawada, M., Noriyama, Y., Arita, K., Ota, T., Sadamatsu, M., Kiyotou, R., Hirai, M., & Kishimoto, T. (2010). Tai Chi exercise versus rehabilitation for the elderly with cerebral vascular disorder: A single-blinded randomized controlled trial. *Psychogeriatrics*, 10(3), 160–166.